教科名	地理歴史科	単位数	４単位	担当	泉田　正則
科目名	地理Ｂ	学年・学級	３年次選択・文系		
科目の目　標	現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考慮し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う				
教科書 副教材等	「新詳地理Ｂ」（帝国書院）　「新詳高等地図」（帝国書院） 「データブック 2015」（二宮書店）　「新編地理資料 2015」（とうほう） 「ウィニングコンパス地理の整理と演習　2016」（とうほう）				

1　学習の目標

地理の学習を通して、次のような知識を身につけましょう。

(1) 現代社会で起きている事象を、自然環境や産業、都市など項目ごとに追求したり、地域の規模に応じて多面的に追求して、それらを地理的な事象としてとらえる視点や方法を身につけます。

(2) 日本や世界でみられる諸事象を、位置や空間的広がりとのかかわりで地理的事象として見いだしたり、地域という枠組みの中で考察して、国際社会に主体的に対応して生きることができる日本人としての自覚と資質を養います。

2　学習内容と進め方

高校の地理学は、おおまかに次のような内容で学習を進めます。

(1) 世界の地理の学習を深めるために、教科書から地図帳や地理統計、図表などを活用しながら総合的な学習となるように授業を進めます。

(2) 必要に応じて、作業を通して「なぜこうなったのか」「どのように変化していったのか」「どのような傾向があるのか」などの学習の視点や方法を考えることも重視します。

3　学習の留意点

次の点に注目して学習すると学習内容に対しての理解度が深まります。

(1) はじめて聞いた国名や地名は、地図帳で確認をし、チェックして見返す習慣をつけましょう。

(2) 地理の学習は、単に語句を覚えるだけでなく、グラフや統計データなどから内容を理解しながら深めていくことが大切です。点である知識を有機的に繋げ、線へ、面へという広がりをもった理解としていきましょう。

(3) 問題意識を持ちながら授業に参加し、ノートは単に板書を写すだけではなく、自分で考えたことや感じたことや興味を持ったことなどをメモしたり、口頭での説明を簡潔にメモするなどして、オリジナルのものとなるように心がけましょう。

4　評価の方法

(1) 定期考査の成績・課題の取り組み・授業ノートのまとめ方などを総合的に判断し、個々の到達目標にも考慮しながら評価していきます。

(2) 地理歴史科の観点別学習状況の評価の４観点「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「資料活用の技能」「知識・理解」を基本として、科目の目標や単元の到達目標に照らし合わせて評価をしていきます。

5　授業計画

月	領　域	単　元　・　考　査　等	時間	学習内容	評価の観点（基準）
4 5		第Ⅱ部　世界の諸地域 ２．欧州 ｉ．東欧及びロシア 第Ⅲ部　グローバル化する現代社会 １章　21 世紀の世界の諸課題のとらえ方 ２章　グローバルに結びつく現代社会 ３章　近隣諸国の研究 ４章　地図でとらえる現代世界 ５章　地域区分でとらえる現代世界	4 6 6 6 8 4	・国家・国境問題 ・国家の結合 ・交通と通信 ・情報化社会の現状 ・世界の貿易のあり方 ・地図の見方，利用法 ◎今日の現代社会が抱える地理的な諸問題を受け止め、それを解決していく方策を見い出す力を養う	【思考・判断】 ・諸地域の環境条件、他地域との結びつき、地域に生きる人々の営みおよびそれらの相互関係を踏まえて多面的、多角的に追求しているか。 ・それらを追及した過程や結果を関連づけることを通して、それぞれの地域、国、州、大陸の地域性をとらえる視点や方法を考察することができたか。 【資料活用の技能・表現】 ・学習に必要な資料を活用して、考察の過程や結果をまとめたり、発表したりすることができたか。
7 8 9		第Ⅳ部　地球的な課題 １章　人口･食糧問題 ２章　都市･住居問題 ３章　環境･エネルギー問題 ４章　民族･領土問題 問題演習（基礎）	 4 4 4 8 24	・都市問題 ・都市の再開発 ・世界の民族，領土問題 ・民族，領土問題の解決への方策 ・少数民族における課題	【知識・理解】 ・地図化してとらえる目的とその意義を理解し、それらの知識を身につけているか。 ・地球的規模の解決のためには国際協力が必要であることを理解し、それらの知識を身につけているか。
10 11 12		問題演習（センター）	24		